

九州共立大学

経済学部

2023 年度

カリキュラムマップ

地域創造学科 専門教育科目

<p>学是 (学則第1条の2)</p>				<p>本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>				
<p>経済学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の3)</p>				<p>経済学部は、学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適応できる、幅広い職業人を養成することを目的とする。</p> <p>【経済・経営学科】 経済・経営学科は、経済学領域・経営学領域を広く学び、環境や消費者保護、企業倫理などの公共の視点に立ち、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の担い手となる人材を養成することを目的とする。</p> <p>【地域創造学科】 地域創造学科は、経済・経営学の科目を基盤に、地域創造に関する専門的知識を学び、PBL(Problem-Based Learning)やアクティブラーニング型の授業を重視した教育課程により、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材の養成を目的とする。</p>				
<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)</p>				<p>地域創造学科は、総合的な教養、地域経済・社会貢献分野での多様な専門知識を身につけ、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材を養成することを目指す。 この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。</p> <p>【主体性・協働性・倫理性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。</p>				
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)</p>				<p>地域創造学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。 教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p>【教育内容】 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、社会貢献コース、地域経済コースの2コースで構成し、地域の発展に寄与できる専門知識と実践力を養う科目を配置する。 2. 専門教育科目は、「経済学関連科目」、「経営学関連科目」の基本知識および「社会貢献関連科目」などを中心に、地域社会の汎用的科目群を体系的に配置する。3. さらに専門教育科目では、社会貢献、地域経済などの領域で必要とされる能力の可視化として、資格取得科目を配置し、地域におけるさまざまな課題に対して実践的に取り組む科目を配置する。これらの科目を通して、国内外において活かせる「課題探求能力」、「課題解決能力」、「調査・分析能力」、「コミュニケーション能力」、「実践力」を育む。</p> <p>【教育方法】 1. PBLやアクティブラーニングを重視し、主体的な学びを高める教育手法を実施する。 2. 地域と協働し、地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身に付けられるよう指導する。 3. 演習においては個別の習熟度を見極め、きめ細やかな個別指導を実施する。</p> <p>【教育評価】 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。 2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことにより認定する。</p>				
<p>経済学部のカリキュラム</p>				<p>卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]</p>				
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性・倫理性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。 ※「倫理性」は2023年度以降の入学より適用
コア科目群	経営学概論	1年生	前	企業(営利経営)を中心に、政府・官庁・学校・病院・軍隊・労組・スポーツチーム・文化団体など様々な組織体(非営利経営)の「組織と管理」を研究対象とする経営学は、現代社会を支えるだけでなく、地域の振興とその担い手である人材の育成にも不可欠の学問である。本講義では現代の決定的制度である企業の社会的な重要性に注目し、企業経営を中心として経営学の基礎的な知識・理論を学んでいくが、そこでの学修は非営利経営にも応用可能である。経営学の習得は、地域創造学科での4年間の学びにとって有効な土台となるであろう。	①経済学部、地域創造学科の学生にとって必要な、経営学の基礎知識・理論を習得すること。②その過程で、「経営学の視点から、現代企業・現代社会を見る目」を養うこと。同時に「地域創造について考えられる」ようになること。様々な問題に対して、経営学によって「自分で、ものを考えられる」ようになること。③経営学の知識・理論を、地域創造学科での専門的な学修(PBLを含む)に活用できるようになること。	◎	○	○

コア科目群	経済学概論	1年生	後	高校時代に「現代社会」や「政治・経済」を履修していても、経済学部に進学してですら経済または経済学に興味を示さない学生が少なくない。こうした状況を踏まえれば、経済学を学ぶには、先ず経済学特有の言葉に慣れ親しむことから始め、その後により現実の経済に則した題材を基に社会の経済現象から経済学のロジックを学んでいった方が効果的であろう。この学習プロセスを実現するために、調査、分析、比較、発表等といった側面から深く理解できるようにし、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニング手法も体得させていく計画である。	①世の中の経済的な動きに深い関心を持ち、経済学特有の言葉とはどのようなものなのかを知り、およそその経済現象を自分の言葉で説明できる。②このコア科目の受講により、2年次以降の経済専門教育科目を理解するための橋渡しとすることができ、より高い次元の経済リテラシーを身に付けることができる。	◎	○	○
コア科目群	統計学入門	2年生	前	Society5.0に向けて、AIやビッグデータということと共、「情報(データ)」がもつ価値をもつ現代では、データから様々な問題を解決する能力は必要なスキルになりつつある。本講義では、統計学の基礎的、標準的手法について解説しながら、データの特徴や性質を重視し、それらを具体的な問題解決の手段として活用できるように、データのなるべく数式を用いず考え方を大切にした講義にする。例題を多く取り入れ、データを整理する一連のプロセスを体験しながら入門的な学習する。	・統計学の基本的な知識を学び、考え方を理解できる。・データの種類とそれぞれの取り扱い方について理解できる。・コンピュータを用いて、データの処理、分析ができる。	◎	○	○
コア科目群	統計学	2年生	後	近年ビッグデータの時代と言われていますが、そのデータをどのように活用するかに関する基本を学びます。また本講義を通じて実際にデータを問題解決に結びつけるための基礎となる理論を中心に学びます。得られたデータをどのように加工するか、どのような特徴・特性を持っているのかについて学習し、大量のデータから意味のある結論を導くための第一歩を踏み出しましょう。	1.データの種類とそれぞれの取り扱い方について理解できる 2.データの平均・分散(標準偏差)を求め、データの特徴を掴むことができる 3.記述統計と推測統計の違いを理解できる 4.統計を用いて自分が分析したいことを想定できる	○	◎	
コア科目群	マクロ経済学	2年生	後	マクロ経済学(macroconomics)は、個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱うものである。マクロ経済学の対語は、経済を構成する個々の主体の行動を対象とするミクロ経済学である。マクロ経済学の誕生は、一般的に1936年に刊行されたイギリスの経済学者ジョン・メイナード・ケインズの著書『雇用・利子および貨幣の一般理論』に始まるとされる。この科目では、マクロ経済学の入門知識の基礎的内容を中心に学ぶ。	①マクロ経済学の考察対象や、政府と民間企業などの役割の違いを理解することができる。②マクロ経済統計の諸概念、たとえば、GDP、デフレ・デフレギャップ、インフレ・インフレギャップ、利子率、失業率、名目値、実質値の違い、三面等価の原則、国民経済計算による諸統計の定義や概念、さらに景気動向を捉える指標について自分の言葉で説明できる。③マクロ経済学の中核をなすケインズ経済学が想定する需要と供給の関係を理解できる。④貨幣市場の需給均衡と利子率、GDPなどとの関係を理解し、自分の言葉で説明できる。	◎	○	○
コア科目群	ミクロ経済学	2年生	後	みなさんは日々、あらゆる経済活動の中で生活しています。モノやサービスを買う側としてはもちろん、売る側となることもあるかもしれません。そこで、本講義では、消費者の行動目標である効用最大化と生産者の行動目標である利潤最大化を達成するためにどのような行動をすれば良いのかについて学習していきます。また、市場のメカニズムと市場の失敗についても併せて学んでいきます。ミクロ経済学の考え方に触れ、経済学を学ぶ上での基礎を身につけましょう。	1.ミクロ経済学とマクロ経済学の違いについて理解できる 2.効用最大化と利潤最大化について理解できる 3.市場のメカニズムについて理解できる 4.政府の介入と独占による総余剰の変化について理解できる	◎	○	
コア科目群	日本経済史	2年生	後	この講義では、近世から近現代の日本経済の発展を歴史的に把握することを目標とします。歴史的にみて日本は江戸時代、現代社会に通じる市場経済、産業経済を軸とした経済社会が成立しました。その後日本は、幕末に開港して世界市場の一環に加わり、産業革命・工業化を開始し、第一次大戦期に重化学工業化を進展させ、戦時・戦後復興を経て高度経済成長を達成しました。この講義では、近世から高度経済成長期の日本経済史を解説します。また地域経済の創造と発展、停滞の歴史を、北九州地方の事例からみたいと思います。	・日本における市場経済、産業経済の始まりと現代に至る前までの展開を学ぶことができる。・長期的スパンから、現在に通じる日本経済の展開を知ることができる。・産業を通じ地域が創造された事例を、北九州という身近な事例を通じ学ぶことができる	◎	○	○
地域創造基礎科目群	KKU北九州学	1年生	前	本授業は、九州共立大学が位置する北九州地区に関する知識を修得し、今後地域について学ぶ基礎を身につけることを目的とする。近代以降から現在に至るまで、北九州市で起きた出来事とその出来事が、現在どのように記憶され、語られているかを知る。その記憶、語りが現在の北九州にいかに関わり、どのように形作っているかを考える。また、北九州地域で関心のある出来事、場所を一つ取り上げ、他者に伝えて聞く作業を通して、北九州に関する知識を広げる。	①北九州地区に関する知識を修得することができる。②地域について学ぶ基礎を身につけることができる。③北九州市で起きた出来事とその出来事が、現在どのように記憶され、語られているかという視点から地域を見ることが出来る。	◎		
地域創造基礎科目群	簿記入門	1年生	前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	1.複式簿記の構造について、説明することができる。2.会計処理のルールとその考え方について、具体的に述べる事ができる。3.簿記一巡の手続について、説明することができる。	◎	○	○

地域創造基礎科目群	簿記入門演習	1年生	前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして設立されている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について説明できる。②学修範囲の仕訳ができる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	初級簿記	1年生	後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして設立されている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について説明できる。②学修範囲の仕訳ができる。③各種帳簿を作成できる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	初級簿記演習	1年生	後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして設立されている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿の作成について、説明することができる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	地域貢献概論	1年生	後	本講義は、地域社会における貢献活動の実践の歴史的経緯と現状を学ぶことを目的とする。地域貢献に関する事例を取り上げ、諸団体とその活動に関する知識の習得を通して、地域社会と地域社会への貢献について考える。また、関心のあるあるいはこれまで経験した地域貢献の事例の一つを取り上げ、他者に伝えて聞く作業を通して、地域貢献に関する知識を広げる。	①地域社会における貢献活動の実践の歴史的経緯と現状に関する知識を身につけることができる。②地域社会における貢献活動の実践事例に関する知識を身につけることができる。③地域貢献に関する事例を説明することができる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	地域のまちづくり入門	2年生	前	本授業では、まちづくりを担うための基本的な知識を理解することを目的としています。これまでは行政主体のハード整備からのまちづくりが進められてきましたが、今後はそのような取組みに加え、地域ごとの課題や魅力を踏まえたまちづくりに多様な主体が協力しながら取り組むことが大切になってきます。まちづくりの形は地域によってさまざまですが、これからの持続可能なまちづくりをどう行うべきかを主に北九州市やその周辺エリアでの取組事例を題材にしながら、地域が抱える現代的問題を取り上げて解決の方法を検討します。	①まちづくりを担うための基本的な知識を説明できる。②取組事例を参考にしながら、地域創造のために何が必要であるのかを考える力を身につける。③地域の特徴と直面している課題を把握し、人に伝えられるようになる。	◎	○	
地域創造基礎科目群	民法	2年生	前	民法は私たちの日常生活に密接に関係する基本的な法律です。この授業では、民法の5つの編のうち、第1編「総則」、第2編「物権」、第3編「債権」について学びます。法律知識を身につけながら、民法と私たちの身の回りの出来事がどのように関わっているかを説明します。そのために、以下の方法で行います。・総則・物権・債権に関する基本的な知識を、条文を参照しながら説明する。・総則・物権・債権について、具体例を挙げながら説明する。	①民法の基本的な原則を説明できる。②民法総則の基本的な制度を説明できる。③物権の基本的な制度を説明できる。④債権の基本的な制度を説明できる。⑤民法が私たちの生活にどのように関わっているかを説明できる。	○	◎	○
地域創造基礎科目群	人口学	2年生	前	人口問題は社会経済の基礎である。少子化・高齢化が進む中で人口減少は、日本の経済や社会に多大な影響を及ぼすことが懸念されている。そのような状況下では、人口データの性質を把握し人口が経済や社会に及ぼす影響を客観的に分析することとその分析結果の意味を理解する能力が重要ではないかと思われる。本講義では、人口学をはじめ各分野で用いられる基本的な指数や概念の定義を丁寧に説明し、指数や定義から「何を言えるのか」についてデータを用いて明らかにする。	①世界や日本、とりわけ九州・沖縄地域の人口動態等に深い関心を持ち、人口学特有の言葉とどのようなものなのかを理解できる。②人口動態等の変化が経済や社会に及ぼしうる様々な影響を自分の言葉で説明できる。③この科目の受講により、より高年次の科目である地域経済論、地方自治体の財政、社会保障論、経済政策などといった経済専門教育科目を理解するための橋渡しとすることができ、より高い次元の経済素養を身につけることができる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	社会調査法	2年生	前	本授業では、社会調査の目的や意義、歴史的背景・方法に関わる基本的知識を習得し、これから授業で調査を行うために必要となる前提を学ぶことを目的とする。社会調査の手法や計画・実施の手順について解説することに加えて、社会調査の歴史と調査倫理など、社会調査の基本的事項を説明する。	①社会調査の目的や意義、歴史的背景・方法に関わる基本的知識を身につけることができる。②社会調査の手法や計画・実施の手順に関わる基本的知識を身につけることができる。③社会調査の歴史と調査倫理など、社会調査の基本的知識を身につけることができる。	◎		

地域創造基礎科目群	ビジネスとICT	2年生	後	近年、「ビックデータ」「パーソナルデータ」といった用語を目にする機会が増えてきている。今日の情報化社会の中で、経済活動の全体像の把握や効率的な経営を遂行していくためには、情報通信技術（ICT）を活用した統計学的知識やデータ分析の技術を欠かすことができない。本講義では、経済データを理解し、ICTを用いて加工編集し、それをもとにレジュメを作成することのできる基礎的な力を身につけることを目標とする。	1. 情報通信技術（ICT）についての概要を理解し、活用することができる。 2. 情報収集の多様な手段とその情報の信憑性の適切な判断が多角的視点をもつことができる 3. 提示されたデータを正確に読み解き活用することができる。 4. ビジネスにおける経済データをExcelで加工編集することができる 5. これらのデータを活用し、報告書や卒業論文を作成することができる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	社会調査法演習	2年生	後	社会生活に関連する事柄について理解するために重要な役割を果たしている社会調査に関する基礎知識を前提とした上で、実践的な調査方法を学んでいく。	多くの社会調査が存在し、その調査結果が身の回りにあふれている現代社会において、次のようなリテラシーを得ることを授業の到達目標とする。 ・アンケート結果から得た情報を自ら精査し、解釈できる ・さまざまな社会調査の手法や計画・実施の手順を理解できる ・社会調査の目的や意義について、その分析手法の観点から理解できる	○	◎	
地域創造基礎科目群	おもてなし総論	3年生	前	ホスピタリティとは一般的に「思いやり」「心からのもてなし」などと訳されます。サービスとは何か？ホスピタリティとは何か？と違いを学ぶことでおもてなしの心を理解することができるでしょう。CS（Customer Satisfaction）とES（Employee Satisfaction）の関係を知り、人間関係の構築に役立ててください。	・ホスピタリティマインドを身につけることができる ・おもてなしの言葉づかいが理解でき、使えるようになる ・サービス接客検定などに合格できる	○	○	◎
地域創造基礎科目群	地域経済論	3年生	前	本科目は、「広義の地域経済学」の入門程度の内容を扱う。ここでいう「広義の地域経済学」は、およそ「狭義の地域経済学」と「都市経済学」から構成される。このうち、「狭義の地域経済学」は、地域の経済構造や経済成長を分析しつつ、地域の経済問題（地域間経済格差など）に対する政策を論じようとする、主に第二次世界大戦後に発展した経済学の一分野である。他方、「都市経済学」は、対象とする地域を都市に絞って、都市の空間的経済構造、すなわち種々の経済活動の土地利用構造の経済学的分析を中心として、土地利用と関連して生じる都市問題を解明し政策の在り方を論じようとするものである。	①まず本科目でいう「地域」とは何を指すのかを理解できる。②日本の地域構造の特徴を理解し、その概要を説明できる。③日本の地域別の産業構造の特徴を理解し、自分の言葉で述べることができる。④日本の地域間の経済格差を理解し、なぜそういった格差が生じたのかを自分の言葉で述べることができる。⑤日本の地域問題に対する国（中央政府）の果たしてきた、もしくは果たすべき役割を理解したうえで、客観的な論評を行うことができる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	質的調査法	3年生	前	本授業では、質的データの収集や方法、分析について学び、質的調査研究の実践に必要な基礎的な力を身につけることをめざします。質的調査の方法を学び、具体的に質的調査の研究例を紹介し、質的調査を用いた研究を見ていきます。インタビュー調査に焦点を当て、インタビューの種類や手順、実施について理解を深め、インタビュー調査が遂行するための知識を身につけるとともに、得られた質的データの分析方法を学びます。	(1)質的データの収集や方法、分析について学び、質的調査研究の実践に必要な基礎的な力を身につけることができる。(2)インタビュー調査を遂行するための知識を身につけることができる。(3)質的データの分析をするための知識・方法を身につけることができる。	◎		
地域創造基礎科目群	地域協働論	3年生	後	近年、地域社会が抱える諸問題とその解決が課題となる中、地域住民や行政、大学など多様な主体の協働による包括的な課題解決が試みられている。地域の諸問題に対処する方策として、実際にどのような協働がなされているのだろうか。地域社会をより魅力あふれるものとするために、行政や企業、そして地域住民には何が求められているのだろうか。本授業では、地方自治体での実務経験を持つ教員が、地域社会が抱える諸問題とその解決に向けた協働のあり方について、実践事例を踏まえた授業を展開し、協働とは何かを理論的に学んでいく。	①地域社会に関する知識を身につけ、課題を発見し、解決する力を身につける。②地域での協働の意義や特徴について説明できる。③地域での協働の実態を理解し、その課題やあるべき協働を理解できる。④まちづくりの担い手として、地域での活動を想像し、主体的に考え、責任を持って行動する力を身につける。⑤地域の一員として、行政や企業、住民と協働し、魅力あるまちづくりに貢献できる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	ソーシャルビジネス論	3年生	後	「ソーシャルビジネス」とは、子育てや高齢者・障害者の介護、環境保全、まちづくり、地域活性化など私たちの生活の身近にある様々な社会的課題に対し、ビジネスの手法を活用して解決策を検討する取り組みを指す。また、近年では、企業の社会的責任（CSR）の一環として本業とは別の目的でソーシャルビジネスに取り組む事例も見られる。本授業では、地方自治体での実務経験を持つ教員が、地域社会が抱える諸問題とその解決に向けたソーシャルビジネスの具体的な事例を通じて、地域社会における課題の現状と課題解決の一つのアプローチとしてのソーシャルビジネスの意義について学んでいく。	①地域振興やまちづくりに関する基本的な考え方や理論を理解することができる。②地域社会の現状と課題についての理解を深め、自ら課題について考えることができる。③事例検討を踏まえ、実践的な解決策を検討することができる。	◎	○	○
コース科目群	財政学	2年生	後	財政学は政府の経済活動を考察する学問である。講義の目的は、予算制度や租税制度の仕組みについての正しい知識を習得し、それらの機能と効果を理解することにある。具体的には、政府の予算に焦点を当てて国民経済的な見地から財政運営の実態を考察する際にはマクロ経済学の考え方をを用いる一方、租税制度と社会保障制度の経済効果を考察する際にはミクロ経済学の考え方をを用いる。制度や理論の解説に際しては、図を効果的に用いることで極力わかりやすい講義内容とするが、通常は半期2回もしくは通年で講義すべき質量を伴ったテーマを集約して扱う。それらを構成し直した半期科目として開講するため、受講者には何よりも熟意と意欲が求められる。	新聞等で報道されている日本の財政状況や税制・社会保障制度について、客観的に事実を整理し、問題の所在や解決に向けた論点を自分の言葉で説明できるようになることが到達目標である。	○	◎	

コース 科目 群	地域のまちづくり	2年生	後	本講義では、北九州市やその周辺の市町村でのフィールドワークを通じて地域が実際に直面している課題について調査し、それらを解決するためのアイデアを考え、最終成果として自分たちが考えるまちの課題解決プランの発表を行います。グループディスカッションや課題解決技法を学びながら、地域課題を「自分ごと」として捉える視点や考え方を実践的に身につけていきます。	①地域の特徴をまちづくりの観点から人に伝えられるようになる。②取組事例を参考にしながら、地域創造のために何が必要であるのかを考える力を身に付ける。③実際の事例を題材に、課題解決のプロセスを身に付ける。	○	◎	○
コース 科目 群	地域環境政策論	3年生	前	21世紀は環境の世紀と言われているが、依然として様々な問題を抱えている。真に豊かな生活が営まれるよう、地域の環境政策の歴史、将来の展望について学ぶ。具体的には、環境未来都市を目指す北九州市における多様な主体による環境政策を俯瞰し、循環型社会の形成、低炭素社会の構築、生物多様性の保全を推進する地域社会の創造に向けた取り組みについて、今後どのように対応すべきかを、自らが取り組む視点に立って思考することのできる力を養う。	低炭素社会の構築、循環型社会の形成、生物多様性の保全を推進する社会の創造を目指し、現代社会における課題を発見し、それを解決するための方策を市民目線で考え提示することができる。	○	◎	○
コース 科目 群	行政法	3年生	前	現代行政国家において、法律による行政の原理の下、行政組織法、行政作用法、行政救済法の制度趣旨や基本事例を学び、その理解を深めます。担当教員は、これまで地方公共団体の行政委員会や審議会の専門委員を務めた経験があり、行政運営に関わってきた実務経験を交えながら講義を進めます。基本的な条文解釈・判例評釈・学説を積極的に理解し、基礎知識を事例に当てはめながら、論理的に考え、答えを導くことのできる能力の習得を目指します。テキストを用いながら講義を進めていくので指定テキストを必ず持参してください。	①現代行政国家において、国民・住民と行政との法的関係について、広い視野をもって理解・判断できるようになる。②法令の解釈を通じて論理的思考かつ公益性とは何かを念頭に置き、法的紛争を解決に導くことのできる基礎的素養を身につける。③将来、地方公務員を志望する者にとつては、行政実務の基礎となる科目であり、公務員としての法令解釈能力の基礎を習得する。		◎	○
コース 科目 群	地方自治体の財政	3年生	前	科目名「地方自治体の財政」は本学固有の呼称であり、学問分野としては「地方財政論」に対応する。主な考察対象は、個別の都道府県および市町村に共通して適用される予算制度、実際の歳入と歳出、全都道府県及び全市町村の集合概念としての地方と国の役割分担、国から地方への財源移転である。これらにかかわる諸制度の総称がいわゆる地方財政制度であり、その具体的な内容と住民の生活を支えるうえで果たしている役割を理解することに重きをおく。重要事項を確実に理解できるように、平易な授業内課題を授業の都度提示する。	・国との関係に注意を払いながら、地方財政を支える地方財政計画、地方税体系、地方交付税制度について、自分の言葉で説明できる。・新聞等で報道されている地方財政問題について、特に重要なことは何であるか、論点を絞り込むことができる。・上記の問題が何に起因しているのか、解決に向けて何が求められるのかを説明することができる。	○	◎	○
コース 科目 群	公共経済学	3年生	前	この科目では、政府(公共部門)の経済関係諸問題、すなわち公共経済を取り上げて学ぶ科目である。具体的には、公共経済学は、政府(中央政府と地方政府を含む)や公共部門を経済学の見地から分析する学問である。授業の内容は、公共財の供給量の決め方、消費税、法人税などといった税金の望ましい徴収方法、補助金の経済効果、公共料金の決めかた、地方財政の姿及び地方分権など多岐に及ぶ。	公共経済学を学ぶことによって、現在の政府の政府の行政や財政に対するより実践的な理解を深めることができる。政府はなぜ必要なのか、税金はどのように課せばいいのか、公共投資はどのように行えばいいのか、などについて自分の見解を論理的に述べることができる。政府の経済政策を客観的に検討し、そのあるべき姿に対する自分の考えを述べることができる。	○	◎	○
コース 科目 群	地域の教育と文化	3年生	後	これまで地球上の資源に限りがあるにもかかわらず、永久に成長を続けられるかのような経済活動を行ってきた。その結果、地球温暖化、資源の枯渇、環境破壊、紛争や戦争、文化破壊といったさまざまな問題を引き起こしてきた。そこで、持続可能な未来を考えるときに、未来を創る鍵となりうる教育をみていく。まず、これまでの学校教育や生涯学習のあり方を学ぶ。次に、ESD(持続可能な開発のための教育)の概念に包含されている「環境教育」、「国際理解教育」、「世界遺産や地域の文化財等に関する教育」の分野を学んでいく。あわせて、地域文化の継承と創造についても学ぶ。本講義を通じて、真の「豊かさ」を考察していく。	①ESD(持続可能な開発のための教育)とは何かについて理解できる。②地球環境の現状を把握し、その上で課題解決に向けての持続可能な考え方を理解できる。③持続可能な地域社会を維持するためには、どのようなことのできるのかを考察できる。④文化が地域づくりや地域再生に寄与することを理解できる。	○	◎	○
コース 科目 群	地域リーダー育成演習	3年生	後	地方自治体での実務経験を持つ教員が、現代地域社会における様々な諸問題を解決し、優れた組織、経営、社会を形成していくには、どのようなリーダーシップを発揮することが必要であるかについて講義する。本講義では、基本的なリーダーシップ理論とリーダーシップの持つ性質を理解し、演習としてケーススタディとディスカッションを通じてリーダーシップとは何かを検討していく。実践の場としての組織、社会の考え方を合わせて究明することにより、地域活動実践において実行可能なスキルの認識を深める。	①リーダーシップの本質を理解する ②リーダーに必要なものの見方・考え方・行動を学ぶ ③自己の特性を知り、実践場面におけるリーダーシップ発揮のための課題を抽出する	◎	○	○
コース 科目 群	社会保障論	3年生	後	社会保障は、様々なリスクに、個人単位ではなく社会全体で共同して備えるために用意されている公的なセーフティネットである。保育・医療・年金・介護など人生のどこかで必ず利用する非常に身近な存在である反面、対象とする範囲は広く、制度も複雑で、全体像を理解するのは容易ではない。そこで、この授業では、社会保障制度の趣旨と我が国の現行システムの全貌をつかみ、同時に、日本社会の成熟化に対応した「現代型社会保障」についても論じていく。	1. 各種の社会保障制度の概要を説明できるようになる。2. 社会保障を実現する手段(社会保険方式と税方式、雇用者モデルと地域モデル、金銭給付と現物給付など)の利害得失について、説明できるようになる。3. 現行制度の中で、時代や社会状況にマッチしていない部分を指摘し、今後、どのような設計にすればいいのか、レポートにまとめることができる。		◎	

コース 科目 群	経済政策	4年生	前	<p>経済政策は、経済の成長や安定を図り、国や地域の社会経済的課題へ対処するために政府がおこなう諸政策のことである。財政・金融政策が有名だが、政府の政策誘導は、労働市場、所得分配、格差是正、国土開発(住宅・交通)、農業、通商など、さまざまな分野で展開されている。そこで、授業では、各分野ごとに、どのような条件下(制約下)で、何を目的に、どのような政策が打ち出され、経済・社会に対し、どのような働きかけがされてきたか?について見た上で、統計資料も踏まえ、その成否を評価し、今日的課題を明らかにしていく。そして、諸外国が採用している政策との対比も交えつつ、課題に対処するための選択肢と方策を考えていく。</p>	<p>①現実に実施されている経済政策の意図と手段について説明できる。②現在の経済・社会が直面する課題をつかみ、それを打開するための対応策を提案できる。</p>			◎	
コース 科目 群	地域の健康福祉	4年生	後	<p>人々が地域で安心して豊かに暮らしていくには「健康福祉」がその基本要素となっている。そこで、本講義では、地方公務員として、まちづくり、地域医療、健康推進、スポーツ振興等に従事した経験や、NPO法人代表として「子ども食堂」の運営や「健康づくり教室開催」等の地域課題解決に取り組んできた実績を活かした授業を展開する。また、私たちの生活は健康な生活があることで成り立っており、それを支える福祉が充実していることで実現できていることを具体的事例を参考に学ぶとともに、地域に携わる人々が直面している課題についてわかり易く解説し、地域での問題解決への力を身につけていく。</p>	<p>・地域の健康福祉について、多岐にわたる様々な視点から総合的に説明できる。・地域の健康福祉の課題を、自らの課題発見力、状況把握力、実践力などの能力で解決することができる。・他者の考えを興味を持って真剣に聞くことができる。・自分とは異なる意見や価値観などを持つ他者と協働することができる。</p>			◎	○
コース 科目 群	会社法	2年生	前	<p>会社法は、企業形態の一つである会社に関する法律です。この会社法は、会社をめぐる様々な利害関係を調整し、法律関係を円滑に処理する役割を担っています。ニュースや新聞紙上でも、株式、株主総会、M&Aといった会社法に関する用語が頻りに登場しますが、会社法は、ビジネスパーソンにとって大変身近な法律であるのです。この授業では、株式会社を中心に会社法の基礎を体系的に理解できるように、税理士としての実務経験を活かし、実践的視点から授業を行います。</p>	<p>本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての会社法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。①会社法の基本的仕組みを理解できる。②会社法の基本的問題に関して認識できる。③具体的な問題解決に必要な会社法の仕組みと解釈方法を修得できる。</p>			◎	○
コース 科目 群	経済史	2年生	後	<p>経済は、財やサービスが生産され、流通し、そして消費されるという点から見れば、生存に最も必要な人間の営みのひとつです。経済史は、社会的な動物である人間の経済について、その歴史を、事実の整理、分析、叙述し意味を探ろうとしたものです。経済史は、多様な見方や考えにもとづきなされます。たとえば一国、グローバル、政府や企業、産業者、組織や集団、文化、自給自足に関するものまで。この多様さは、人間が、様々な過程を通じ社会生活を送っていることが反映された結果でもあります。この講義では、経済史学に関するいくつかの方法を紹介した上で、具体的な叙述を事例として解説したいと思います。</p>	<p>・物事を見て説明するには筋道を立てることが必要であることが理解できる ・多くの事実を情報として知覚し、物の見方を通じ取捨選択する必要性の理解につながる ・経済事象を長期的スパンからストーリーとして見ることができ ・経済を通じて人類共通のシステムを理解することができる</p>			◎	○
コース 科目 群	経営管理論	3年生	前	<p>企業(営利経営)を中心に、政府・官庁・学校・病院・軍隊・労組・スポーツチーム・文化団体など様々な組織体(非営利経営)の「組織と管理」を研究対象とする経営学は、地域の振興とその担い手となる人材の育成にも不可欠の学問である。中でも、経営管理論は経営学の中心的な位置にある。本講義では、営利・非営利の経営体の双方に有益な管理論・組織論の、理論と実践について講じる。講義の前半(第1部)では、組織の設計と運営、組織の諸形態、後半(第2部)ではテイラーの科学的管理以降、現代に至るまでの組織と管理の諸理論を取り上げ、管理をめぐる諸問題を論じる。日本企業のイノベーション、及び組織と管理の特徴についても講じる。</p>	<p>①経済学部、地域創造学科の学生にとって必要な、経営管理の基礎知識・理論を習得すること。②その過程で、「経営管理論の視点から、現代企業・現代社会を見る目」を養うこと。同時に「地域創造について考えられる」ようになること。様々な問題に対して、経営学と経営管理論によって「自分で、ものを考えられる」ようになること。③経営管理の知識・理論を、地域創造学科での専門的な学修(PBLを含む)に活用できるようになること。</p>			◎	○
コース 科目 群	金融論	3年生	前	<p>この科目では、金融の基本から、金融と経済の動き、金融政策などといった、①過去に起きたこと、②現在起きていること、③今後起こりうる、もしくは起こりそうなることを中心に講義する。また、都市銀行、地方銀行、信用組合、証券会社など金融機関の種類と役割、株式や債券、投資信託など金融商品の仕組みについても解説する。</p>	<p>①金融とは何か、金融の意味および仕組みを自分の言葉で説明できる。 ②金利の仕組みを理解し、利下げ、利上げなどの意味や効果を自分の言葉で説明できる。③中央銀行と市中銀行の機能と役割の違いなどについて理解し、おおよそ自分の言葉で説明できる④金融政策と何か、ゼロ金利、マイナス金利、円高、円安、外国為替などといった金融用語を自分の言葉で説明できる。⑤都市銀行、地方銀行、信用組合、証券会社など金融機関の種類と役割、株式や債券、投資信託など金融商品の仕組みについて自分の言葉で説明できる。</p>			◎	○
コース 科目 群	流通管理論	3年生	前	<p>私たちが商品を購入するまでには、様々なモノや人が関わり、色々な段階での売買取引を経て流通し、私たちの手元に届いています。本講義では、流通政策の概念や形成メカニズムについての基礎的な説明をしたうえで、日本における流通政策の特徴とその意義を中心に学び、国による流通政策の違いとその背景を明確に理解することを目指します。</p>	<p>・流通政策に関する基礎的な知識を身につけ、流通に関する重要な用語とその内容について理解することができる。・流通政策が必要になった社会的背景と政策意義について理論的に説明することができる。</p>			◎	○

コース 科目 群	事業創造論	3年生	前	これまで3社を起業してきた経験および30年間女性起業家支援事業などの実務経験を活かした授業を展開する。世界的な経済変動(特にこのコロナ禍において)の中で日本や地域社会が継続的発展を成し遂げていくためには、地域における中小企業やベンチャー企業を軸とした、新規事業・ビジネスの創造が必須である。そのため、本講義では、①新規事業・ビジネスの創造の意義と起業プロセスの基礎を理解する ②地域における新規事業・ビジネスの創造に関わる様々な経営現象を学ぶ ③事業計画を立案し、リーンキャンパス(事業計画を整理するフレームワーク)を作成する	新規事業・ビジネスの創造が及ぼす価値や重要性と起業のプロセス方法、手順、過程の基礎が身につく。	○	◎	○
コース 科目 群	経営戦略論	3年生	後	企業(営利経営)を中心に、政府・官庁・学校・病院・軍隊・労組・スポーツチーム・文化団体など様々な組織体(非営利経営)の「組織と管理」を研究対象とする経営学は、現代社会を支えるだけでなく、地域の振興とその担い手となる人材の育成にも不可欠の学問である。中でも、経営戦略論は現代経営学の先端であり、中核である。本講義では、企業の長期的な存続と成長のための選択としての経営戦略の基本論理について、「経営環境」「事業戦略」「企業戦略」「経営組織」の各領域を、具体的な事例を取り上げながら講じる。	①経済学部、地域創造学科の学生にとって必要な、経営戦略論の基礎知識・理論を習得すること。②その過程で、「経営戦略の視点から、現代企業・現代社会を見る目」を養うこと。同時に「地域創造について考えられる」ようになること。様々な問題に対して、経営学と経営戦略論によって「自分で、ものを考えられる」ようになること。③経営戦略論の知識・理論を、地域創造学科での専門的な学修(PBLを含む)に活用できるようになること。	○	◎	○
コース 科目 群	マーケティング論	3年生	後	あなたの「顧客」は誰か?ビジネスパーソンとして企業に勤め、営業や事業に携わる将来を描く人はもちろん、公務員でも、教員でも、目前の利害関係者に対する仕事は、相手の満足度を高めるマーケティング活動だといえる。この講義では、マーケティングの初歩のテキストを解説しながら、消費財の企業での業務体験を紹介し、できるだけマーケティングという言葉が身近に感じられる内容を目指したい。また「自分の頭で考える」、「売場」に足を運び自分で商品を手取る」、「仲間と話し合う」ことを通じて、日常でマーケティングする癖をつけてもらいたい。もちろん、就職活動は自分の価値をどう伝えるかというマーケティング活動である。	・マーケティングとは何か。基礎を理解している。・身の回りに起こっていることを、マーケティングの視点で捉え、考えることができる。・企業の活動の歴史やさまざまな取り組みに関心を持ち、リスペクトする視点を持つ。・自分が目指す職業の方向性に対して、マーケティングの理論を使って積極的に分析したり、考えることができる。・一人の生活者として、よりよい製品やサービスを選択する価値観を持つことができる。・マーケティングに関する知識を生かし、就職活動の役に立てる。	◎	○	
コース 科目 群	事業創造演習	3年生	後	これまで3社を起業してきた経験および30年間女性起業家支援事業などの実務経験を活かした授業を展開します。世界的な経済変動(特にこのコロナ禍において)の中で、日本が、何より地域が勝ち抜いていくためには、地域をめぐる条件変化に対応し、地域に根付いた起業・事業創造が必須である。本演習では、「事業創造論」(前期)での学びを発展させる。①事業創造における起業プロセス、経営戦略、組織づくり等を学ぶ ②学生自身が地域資源をベースとした自らのアイデアをもとに事業計画を立案する ③大学際「霜月祭」に参加することにより起業を実験する	「事業創造論」(前期)で学んだ知識および方法を活かし、事業計画を立案し、リーンキャンパス(事業計画を整理するフレームワーク)を作成する	○	◎	○
コース 科目 群	ゲーム理論	4年生	前	ゲーム理論とは、なんらかの制約(物理的制約・規則による制約など)下で、複数の行動主体(プレイヤー)が相互に影響を与え合いつつ、目標を達成するために行動する状況を「ゲーム」とし、その状況下でのプレイヤーの意思決定と行動を分析するものである。こうした「ゲーム」的状況は、スポーツや企業活動、軍事作戦、国際関係、労使関係などで広く共通するため、経済学、生物学・軍事学・政治学など広い分野で活用されている。そこで、この授業では、実社会や歴史上の具体例に即しながらゲーム理論の初歩を学ぶことで、社会で活動する際に必要になる状況判断能力を養う。	①ゲーム理論の基礎的考え方を身につけ、難しい数式を使わずに説明できる。②身近な出来事や社会的関心の高い問題をとりあげて、ゲーム理論ではどう考えるのか説明できる。		◎	
コース 科目 群	経営組織論	4年生	後	本講義では、経営組織について様々な視点からの諸側面を理解すると同時に、組織における個人・集団について理解することを目指す。	①個人の行動特性を説明する基本概念について説明することができる。②組織を動かすメカニズムを説明する基本概念について説明することができる。③組織構造および組織管理に関連する基本概念について説明することができる。	○	○	◎
実践 科目 群	地域創造実習Ⅰ	1年生	前	本実習では北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、その地域が抱えている課題を知り、様々な分野で活躍しているNPOやボランティア団体、行政や企業など多様な団体と共に、実際にその課題解決に取り組む活動を行います。「実践」と「体験」を通じて、地域に対する理解を深め主体的に取り組む実践力を身につけていきます。特に1年目は地域の魅力や課題を発見し、必要な基礎知識を修得することを目標とします。	①他者と協力して地域での学修に取り組むことができる ②地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。③実習のテーマとなる実践活動に積極的に取り組むことができる。④実践活動をするうえでの基本マナーを身に付けることができる。		○	◎
実践 科目 群	地域創造実習Ⅱ	1年生	後	本実習では北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、その地域が抱えている課題を知り、様々な分野で活躍しているNPOやボランティア団体、行政や企業など多様な団体と共に、実際にその課題解決に取り組む活動を行います。「実践」と「体験」を通じて、地域に対する理解を深め主体的に取り組む実践力を身につけていきます。1年目は特に地域の魅力や課題を発見し、必要な基礎知識を修得することを目標とします。	①他者と協力して地域での学修に取り組むことができる ②地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。③実習のテーマとなる実践活動に積極的に取り組むことができる。④実践活動をするうえでの基本マナーを身に付けることができる。		○	◎

実践科目群	地域創造実習Ⅲ	2年生	前	本実習では北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、その地域が抱えている課題を知り、様々な分野で活躍しているNPOやボランティア団体、行政や企業など多様な団体と共に、実際にその課題解決に取り組む活動を行います。「実践」と「体験」を通じて、地域に対する理解を深め主体的に取り組む実践力を身につけていきます。2年目は特にリーダーシップを発揮し、地域活動の組織を動かすことを目標とします。	①実践活動に必要な基本的スキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③実習のテーマとなる実践活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。		○	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ	2年生	後	本実習では北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、その地域が抱えている課題を知り、様々な分野で活躍しているNPOやボランティア団体、行政や企業など多様な団体と共に、実際にその課題解決に取り組む活動を行います。「実践」と「体験」を通じて、地域に対する理解を深め主体的に取り組む実践力を身につけていきます。2年目は特にリーダーシップを発揮し、地域活動の組織を動かすことを目標とします。	①実践活動に必要な基本的スキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③実習のテーマとなる実践活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。		○	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅴ	3年生	前	本実習では北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、その地域が抱えている課題を知り、様々な分野で活躍しているNPOやボランティア団体、行政や企業など多様な団体と共に、実際にその課題解決に取り組む活動を行います。3年目は地域創造実習(Ⅰ～Ⅳ)で学んだことを元に、地域の課題解決に向けた実践的な活動を展開していきます。	①実践活動に必要な発展的スキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③実習のテーマとなる実践活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。		○	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅵ	3年生	後	本実習では北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、その地域が抱えている課題を知り、様々な分野で活躍しているNPOやボランティア団体、行政や企業など多様な団体と共に、実際にその課題解決に取り組む活動を行います。3年目は地域創造実習(Ⅰ～Ⅳ)で学んだことを元に、地域の課題解決に向けた実践的な活動を展開していきます。	①実践活動に必要な発展的スキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③実習のテーマとなる実践活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。		○	◎
実践科目群	地域調査実習Ⅰ	4年生	前	本授業では「地域の記憶・継承」をテーマに、社会調査の企画から成果報告書の作成までの一連の過程を、現地調査を通じて体験的に学習する。質的調査を中心に行う。先行研究の検討、調査の準備、質問票の作成、対象者の選定、調査倫理の確認、インタビュー実施、プレゼンテーション、報告書の作成を実施する。前期(地域調査実習Ⅰ)では調査前半のプロセス(調査倫理の確認まで)を体験する。	1.社会調査の企画を立案することができる。2.インタビューの質問票を作成することができる。3.社会調査の倫理上の留意点を理解し、模擬インタビューを実施することができる。4.調査対象者を選定し、アポイントメントを取ることができる。			◎
実践科目群	地域調査実習Ⅱ	4年生	後	本授業では地域の記憶をテーマに、社会調査の企画から成果報告書の作成までの一連の過程を、現地調査を通じて体験的に学習する。質的調査を中心に行う。先行研究の検討、調査の準備、質問票の作成、対象者の選定、調査倫理の確認、インタビュー実施などを実施する。後期(地域調査実習Ⅱ)では調査後半のプロセス(報告書の作成まで)を体験する。	1.社会調査の倫理上の留意点を理解し、インタビューを実施することができる。2.文字起こしの仕方を理解し、文字起こしをすることができる。3. KJ法を用いて、データを分析することができる。4. 調査の成果を報告書にまとめることができる。			◎
実践科目群	地域ワークショップ	2-4年生	後	本授業は、企業あるいは行政等との連携型のワークショップ方式で進められる。学内だけでなく、学外での学修も行う。学内・学外学修で知識のインプットや調査を行うことで、地域の実情や課題を知り、考える力を身につける。自治体での実務経験のある教員が、その経験を活かし、これまでとは異なる視点で「地域」を見ることができるよう授業を行う。本授業で企業あるいは行政等の人たちとの関わりを通して、その人たちの地域や仕事への意識・姿勢などを知り、いかんにして地域社会とつながり、自らがどのように関わることができるのかについて、考えを深めることも目標とする。なお、学外実習日程は実習先との調整により変動する可能性がある。	①地域の実情や課題を知り、地域について考える力・見方を身につけることができる。②企業あるいは行政等の人たちとの関わりを通して、その人たちの地域や仕事への意識・姿勢などを知らずして地域社会とつながり、どのように関わることができるのかについて考えを深めることができる。③他者に自分の考え・意見を論理的に表現する力を身につけることができる。④主体的に考え、責任を持って行動する力を身につけることができる。		○	◎
実践科目群	職業研修A	2-4年生	前、後	本講義は、インターンシップの参加を通して、①社会人として必要となる知識・態度等を習得 ②将来のキャリアを検討することをねらいとする。インターンシップ先を選定するための「業種・企業・職業」を理解する。インターンシップまたは仕事上で必要となるマナー・コミュニケーションのスキルを身につける。インターンシップ後、将来のキャリアの検討する。	①インターンシップの経験を通じて、業界、働くことの意味、厳しき、やりがい理解することができる。②自分の適性を理解して、企業で求められている能力を身につけることができる。③仕事内容だけではなく、社会人としての社会での過ごし方も理解できるようになる。		○	◎
実践科目群	職業研修B	2-4年生	後	「職業研修A」で学んだことをもとにして、企業または地方公共団体のインターンシップを長期間行う。期間は1か月未満とする。実習前は事前指導を受け、実習後は報告書の作成、ふりかえりを行ったうえで、実習先の方及びコースの学科専任教員等が出席する報告会において実習内容を発表する。	・インターンシップの経験を通じて、業界、働くことの意味、厳しき、やりがい理解することができる。・自分の適性を理解して、企業で求められている能力を身につけることができる。・社会人と積極的にコミュニケーションをはかり、社会勉強をすることができる。・課題解決、実務経験を通じて、実習先に貢献できるような成果を出すことができる。			◎

実践科目群	チャレンジA (旅行業務取扱管理者) (前半)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である旅行業法(旅行業法及びこれに基づく命令)および国内観光地理について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務を行う上で守るべきルールが定められている法律を修得することができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジA (簿記2級) (前半)	2年生	前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして設立されている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。特に本授業では、日商簿記2級の範囲を主体として学ぶ。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。	◎	○	○
実践科目群	チャレンジA (TOEIC) (前半)	2年生	前	本科目では、TOEIC®Listening & Readingテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識及びノウハウを身につけます。具体的には、400点-550点のスコアを獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組めます。	1. TOEICにおいて400点-550点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて400点-550点レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に対応することができる。4. TOEIC®L&R IPテストを受験し、400-550点を取ることができる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジB (旅行業務取扱管理者) (後半)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である約款および国内観光地理について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行者等と旅行者とのルール(約款)を修得することができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジB (簿記2級) (後半)	2年生	前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして設立されている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。特に本授業では、日商簿記2級の範囲を主体として学ぶ。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿について説明することができる。④税効果会計・合併・本店会計・連結会計について説明することができる。	◎	○	○
実践科目群	チャレンジB (TOEIC) (後半)	2年生	前	本科目では、TOEIC®Listening & Readingテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識及びノウハウを身につけます。具体的には、450点-600点のスコアを獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組めます。	1. TOEICにおいて450点-600点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて450点-600点レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に対応することができる。4. TOEIC®L&R IPテストを受験し、450-600点を取ることができる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジC (FP技能検定3級) (前半)	2年生	後	ファイナンシャル・プランニング技能検定とは、顧客の資産に応じた貯蓄・投資等のプランの立案・相談に必要な技能の程度を検定する試験である。本科目は、ファイナンシャル・プランニング技能検定3級の取得を目指す学生のために開講する。この授業ではクォータ制をとっており、資格取得時期に合わせた開講をし、1週間のうちに2回講義を行うことになる。テキストの理解を中心とし、問題集による理解度を測る。	①ライフプランニングと資金計画について説明できる。②リスク管理について説明できる。③金融資産運用について説明できる。④タックスプランニングについて説明できる。⑤不動産について説明できる。⑥相続・事業承継について説明できる。	◎	○	○
実践科目群	チャレンジC (簿記2級) (前半)	2年生	後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして設立されている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。特に本授業では、日商簿記2級の範囲を主体として学ぶ。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿について説明することができる。④工業簿記の原価計算について説明することができる。	◎	○	○

実践科目群	チャレンジC (TOEIC) (前半)	2年生	後	本科目は、TOEIC® Listening & Readingテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識およびノウハウを身につけます。具体的には、500点～650点を獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組めます。	1. TOEICにおいて500-650点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。 2. TOEICにおいて500-650点レベルのリスニング能力を身につけることができる。 3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に対応することができる。 4. TOEIC® L&R IPテストを受験し、500点-650点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジD (IT パスポート) (後半)	2年生	後	ITパスポートは、これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。具体的には、AI、ビッグデータ、IoTなどの新しい技術やアジャイルなどの新しい手法の概要に関する知識をはじめ、経営戦略、マーケティング、財務、法務など経営全般の知識、セキュリティ、ネットワークなどITの知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を問う試験である。このため、かなり広範な学修が必要であり、予復修が必要となる。	①ITパスポートのストラテジ系(経営全般)について説明できる。 ②ITパスポートのマネジメント系(IT管理)について説明できる。 ③ITパスポートのテクノロジ系(IT技術)について説明できる。	◎	○	○
実践科目群	チャレンジD (簿記2級) (後半)	2年生	後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして設立されている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。特に本授業では、日商簿記2級の範囲を主体として学ぶ。	①簿記一巡について、説明することができる。 ②学修範囲の仕訳について、説明することができる。 ③各種帳簿について説明することができる。 ④工業簿記の原価計算について説明することができる	◎	○	
実践科目群	チャレンジD (TOEIC) (後半)	2年生	後	本科目は、TOEIC® Listening & Readingテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識およびノウハウを身につけます。具体的には、550点～700点を獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組めます。	1. TOEICにおいて550点～700点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。 2. TOEICにおいて550点～700点レベルのリスニング能力を身につけることができる。 3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に対応することができる。 4. TOEIC® L&R IPテストを受験し、550点～700点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	海外地域学研修	2-4年生	前・後	海外ボランティア活動などを円滑に行う上で、英語など外国語に関するスキル及び対人コミュニケーション能力は必須の能力となります。本研修では、実際に海外の教育機関等に赴き、海外のボランティア活動やSDGs活動に取り組むことで、英語などのスキル及び対人コミュニケーション能力の向上を目指します。具体的には、協定校のGITCが提供するNGO法人との共同プログラムに参加し、SDGsとそれに関連した語学学習を行います。	1. NGO法人のSDGs活動について知る。 2. SDGsの活動を行う上で必要な英語の知識と対人コミュニケーション能力を身につける。	○	○	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナール I	1年生	前	地域創造ゼミナールでは4年間を通じて、アカデミック・スキルズ、とりわけライティングスキルを修得することを目的とします。地域創造ゼミナール I では、本の収集方法、本の読み方・まとめ方を身につけます。地域に関する本を読み、ワークシートおよびレポートを作成し、本の検索方法、読み方、まとめ方を実践します。	①本の収集方法を知り、図書館で本を検索して収集することができる。 ②本の読み方を理解し、実践することができる。 ③読んだ本をまとめることができる。			◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナール II	1年生	後	地域創造ゼミナールでは4年間を通じて、アカデミック・スキルズ、とりわけライティングスキルを修得することを目的とします。本授業では、地域創造ゼミナール I で学んだ文献の収集方法、本の読み方・まとめ方を発展させ、本授業では本のレビューも行います。	①本の読み方を理解し、実践することができる。 ②読んだ本を要約することができる。 ③読んだ本をレビューすることができる。			◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナール III	2年生	前	地域創造ゼミナールでは4年間を通じて、アカデミック・スキルズ、とりわけライティングスキルを修得することを目的とします。地域創造ゼミナール I・II で学んだ、本の収集方法、テキストの読み方・まとめ方、レビューの仕方を発展させ、地域創造ゼミナール III では、それぞれが地域に関する一つのテーマを取り上げ、それに関する複数の本を収集し、自らが取り上げるテーマの現状と現状に至るまでの変遷をまとめる作業を通じて、情報を整理し、客観的・論理的な文章を書く力を養います。	①テーマを設定することができる。 ②テーマの現状と現状に至るまでの変遷をまとめることができる。			◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナール IV	2年生	後	地域創造ゼミナールでは4年間を通じて、アカデミック・スキルズ、とりわけライティングスキルを修得することを目的とします。地域創造ゼミナール IV では、地域に関する先行研究(論文)を検討しまとめます。そのテーマについて、これまでどのような研究がなされてきたかを整理し、先行研究のレビューを行いレポートを作成することで、研究上の課題を発見し、文章化する能力を養います。	①論文の収集方法を知り、図書館で文献を検索して収集することができる。 ②論文を読み、まとめることができる。 ③論文のレビューをすることができる。			◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナール V	3年生	前	地域創造ゼミナールでは4年間を通じて、アカデミック・スキルズ、とりわけライティングスキルを修得することを目的とします。本授業でもこれまでと同様、地域に関するテーマを対象とします。地域創造ゼミナール IV で先行研究を検討した経験を踏まえ、地域創造ゼミナール V では、独自の問いを立てることができるようになることをめざします。	①独自の問いを立てることができる。 ②先行研究を検討することができる。			◎

ゼミ ナール 科 目 群	地域創造ゼミナールⅥ	3年生	後	<p>本授業では、地域創造ゼミナールⅤで立てた各々の問いに答えるためのデータ・資料を収集して論を展開し、答えを出す論文形式の文章を作成することをめざします。また4年生の卒論報告会を聴き、来年度の地域創造ゼミナールⅦへ向けた準備を行います。</p>	<p>①独自の問いに対し、論を展開することができる。 ②独自の問いに対する答えを提示することができる。 ③独自の問いに答えるためのデータ・資料を収集することができる。</p>			◎
ゼミ ナール 科 目 群	地域創造ゼミナールⅦ	4年生	通年	<p>本授業では、これまでの地域創造ゼミナールで培った経験と書いてきた文章を活かして、卒業論文、卒業実践報告書を作成し、論理的な文章を書く力をさらに発展させます。卒業論文では、各自の問題関心にもとづき、ある地域の事象が、先行研究においていかなる点がどのような方法で論じられているかを読み取って検討し、独自の問いを立て、論理的に主張できるようになることをめざします。卒業実践報告書では、既存の研究などを踏まえつつ、各自が設定したテーマにおける問題点とその背景について、実践を通して得られた知見を生かした議論を展開できるようになることをめざします。</p>	<p>①卒業論文・卒業実践報告会で他者に論理的に、伝えることができる。 ②卒業論文、卒業実践報告書を論理的に展開し、書くことができる。</p>	◎		